

白鳥陵古墳

白鳥陵の名は、ヤマトタケルの伝説に由来する。ヤマトタケルは大和の国の領土を広げた皇子であると、8 世紀に日本の歴史と神話を編纂した古事記と日本書紀の両方に書かれている。

ヤマトタケルは山の神と素手で戦い、致命傷を負ったそう。勝利をおさめ家に帰ろうとしたが、三重県の能褒野（のぼの）で力尽きた。彼の亡骸から大きな白い鳥（一般には白鳥と書かれている）が飛び立つのが見られたという伝説が残っている。従者は皇子の魂に違いないと思い、その白鳥を追いかけた。白鳥はここに舞い降りたと言われており、ヤマトタケルの従者は永眠の地として白鳥陵古墳を建てたと言われている。この話から古墳を管理する宮内庁はここをヤマトタケルの墓であると定めた。5 世紀末に築造されている証拠があることから、ヤマトタケルとのつながりは伝説に過ぎないと考えられている。

古墳の大きさは約 5.7 ヘクタールあるが、高さは最大でも 3 メートルしかない。周りには周濠が巡っていて、地元の水鳥たちが集っている。日本最古の街道である竹内（たけのうち）街道が古墳北側に沿って走っている。